華国鋒は〝窓際族〟

来年の大会ではヒラ降格か

主席から〝七段落ち〟

29日閉幕した六中全会（中国通信＝時事）

〝天下大乱〟も予想されたお隣、中国の六中全会（第十一期中央委員会第六回全体会議）が閉幕し、〝十億の民〟を率いる新体制が固まった。大方の予想通り鄧小平副主席の〝一の子分〟胡耀邦氏が党主席の座に就き、毛沢東主席にきあと「あなたがやれば私は安心だ」のお墨付きをもらって七六年十月からトップの座にあった華国鋒主席は、七段階降格して副主席の末席に。党内序列の変動は過去にもあったが、主席の座からの〝七段落ち〟は、前代未聞のことという。昨年夏以降、〝閑職〟に追いやられ、今年に入ってからも三カ月間、公式の場に顔を見せなかったりで、「平穏裏に降格か「追放か」とまでささやかれていた華さんのこと、名目的にも副主席の座にとどまったのは、まだよしとすべきなのか。中国問題評論家の中嶋嶺雄・東外大教授は「死んだ〝会長〟の扇がかかっているからポストはあるが、何もやることはない〝窓際族〟のようなもの」と、評しているが、さて華国鋒氏の今後は―。

華国鋒副主席

中国中央テレビが衛星中継で昨夜送ってきた六中全会の模様。胡耀邦新主席のはつらつとした動きにスポットをあて、中国共産党の新しい指導者の陣容をつぎつぎに紹介した。

視聴者の目を引いたのは、胡耀邦氏と鄧小平副主席が会議前に仲よく話し合っている光景。胡氏が鄧氏の推した新しい指導者であることを印象づける場面。また、テレビでは胡氏の主席選出の際、会場から大きな拍手がわき起こるシーンも放映した。

一方、主席を辞任し、副主席に降格した華国鋒氏は、終始無表情、トップの座を離れたためか持ち前の重厚さも影をひそめ、若い胡氏のギラギラした精力的な動きが特にめだって対照的だった。もっとも、特派員の見方はさまざまで、「華氏はニコニコと持ち前のふくよかな笑いを見せて、主席辞任劇もなかったような雰囲気」と、送信してきた社もある。

ところで、党序列の変動を簡単にまとめると①昨年二月の五中総会まで六位だった胡耀邦新主席が一位に、二、三位の葉剣英、鄧小平両副主席は変わらず②第四位にこれまで七位の趙紫陽・新副主席（全員）が躍進、四位だった李先念副主席は五位に③これまで五位の陳雲副主席は六位に、一位だった華国鋒前主席は七位転落―ということになる。

軍事委主席に鄧小平副主席が就いたことは「中国の武装力は党主席が統率する」との憲法規定からみて極めて変則的だが、これは軍内に足場のない胡主席に代わり鄧副主席が軍にニラミをきかすことを意味し、実質、鄧小平院政体制がこれで固まった―とみる点で各紙の論調も一致している。

さて、中嶋嶺雄氏の見方だが、「昨年八月、鄧小平は中央委会議のは、わが国の行革と同じで諸々の抵抗があったわけです。党員の六〇％は文革後の入党者で、やはり華氏にも影響力がある。だから、華氏を末席の副主席にとどめたのはやはり妥協の産物です」と解説する。

さらに、「華氏は昨年夏以降、ことを印象づける場面。また、テレビでは胡氏の主席選出の際、会場から大きな拍手がわき起こるシーンも放映した。

一方、主席を辞任し、副主席に降格した華国鋒氏は、終始無表情、トップの座を離れたためか持ち前の重厚さも影をひそめ、若い胡氏のギラギラした精力的な動きが特にめだって対照的だった。もっとも、特派員の見方はさまざまで、「華氏はニコニコと持ち前のふくよかな笑いを見せて、主席辞任劇もなかったような雰囲気」と、送信してきた社もある。

ところで、党序列の変動を簡単にまとめると①昨年二月の五中総会まで六位だった胡耀邦新主席が一位に、二、三位の葉剣英、鄧小平両副主席は変わらず②第四位にこれまで七位の趙紫陽・新副主席（全員）が躍進、四位だった李先念副主席は五位に③これまで五位の陳雲副主席は六位に、一位だった華国鋒前主席は七位転落―ということになる。

軍事委主席に鄧小平副主席が就いたことは「中国の武装力は党主席が統率する」との憲法規定からみて極めて変則的だが、これは軍内に足場のない胡主席に代わり鄧副主席が軍にニラミをきかすことを意味し、実質、鄧小平院政体制がこれで固まった―とみる点で各紙の論調も一致している。

さて、中嶋嶺雄氏の見方だが、「昨年八月、鄧小平は中央委会議のは、わが国の行革と同じで諸々の抵抗があったわけです。党員の六〇％は文革後の入党者で、やはり華氏にも影響力がある。だから、華氏を末席の副主席にとどめたのはやはり妥協の産物です」と解説する。

さらに、「華氏は昨年夏以降、

胡耀邦主席

趙紫陽副主席

鄧小平副主席

葉剣英副主席

副主席の末席は最大の侮辱だ

生き恥をかかせ…

4年余じわじわ追いつめ 巧妙な〝鄧戦術〟

桑原寿二氏の見方

中国共産党十一期六中全会は二十九日幕を閉じたが、そこにはどのような時代的意義があるのか、こんごどうなるのかについて、中国問題評論家、桑原寿二氏は次のように展望する。

あわれをとどめたのは華国鋒である。五年前の七六年十月、毛沢東から後事をたくされ、党主席兼政府首相として華々しく登場した華国鋒が、昨年の八月の全国人民代表大会（国会）で首相の座を鄧小平の腹心、趙紫陽に譲り渡し、今回の六中全会では党主席の座を同じく鄧小平の腹心、胡耀邦に奪われた。そして副主席の末席にとどめるという屈辱の〝処分〟を受けた。

これを鄧小平の側からいえば、四年有余の時間をかけ真綿で首を絞めるようにじわりじわりと追いつめてきたのが、ついに実ったということになる。つまり、片腕の胡耀邦に党を、片一方の趙紫陽に政府を握らせ、自分は背後からリモートコントロールするという形である。これで鄧小平体制が一応できあがったということになろう。

短兵急の日本だったらとっくに大ゲンカで割れているところを、四年余の時間をかけて追いつめていったところは、いかにも中国的である。ここでくわしく述べる余裕はないが、そこまでもっていった権謀術数―今日風にいえば、スケジュール闘争はお見事というしかない。同時に華国鋒を副主席の末席につかせ生き恥をかかせているが、これは中国の面子（めんつ）感覚からいえば最大なる侮辱である。

「評論する自由もない」悲劇だが、これはこんごにかならずシコリを残すだろう。

波乱含み第三時代の始まり

そこで六中全会が歴史的に位置づけるとどうなるかであるが、私は第三時代の始まりと規定する。すなわち、一九四九年から七六年までの二十七年間は毛沢東時代であり、毛―周コンビの第一時代という時代区分ができる。七六年その二人が相次いで死亡し、そして中国は第二時代に入る。七六年から八二年の今日までの五年近くの期間であるが、毛―周コンビの第一時代に対しそれは華国鋒―葉剣英コンビの時代といえる。そして今回の政変で中国は第三時代に入った、これが六中全会の時代的意義である。

問題は華―葉コンビの第二時代の性格であるが、それは七七年八月の十一全大会ではっきり示されている。一口でいえば、純粋毛沢東路線を継承し、文化革命についてもこのような政治革命はこんご何回も行う―と大きく肯定している。つまり、第二時代の思想基盤を純粋毛沢東路線に求めたということである。

それに対し、鄧小平はただちに反撃にうつり、毛沢東批判のキャンペーンをしたのである。それを一口でいうと「毛沢東の功績は三分、あやまちは七分」ということになろう。それを当時「三・七分法」といわれたのだ。

ところが意外に強い抵抗を受け、なかでも葉剣英を筆頭とする、長老グループから、それでは党団結の思想根拠がなくなるではないかと反撃され、そして結局「毛沢東の功績第一、あやまち第二」に後退したのである。いいかえれば「三・七分法」から「七・三分法」への譲歩的妥協で、やっと六中全会開催にこぎつけたということであり、これが真相である。

六中全会は次の十二全大会の準備会議であり、十二全大会を経て第三時代は正式に認知されるという組み立てであるが、その第三時代の最も重要なイデオロギー的立場が以上のように鄧小平主流派にとってはきわめて不満であるところに問題が残されている。第二にそのような毛沢東路線容認論ではたして党の求心力が回復できるかどうかである。これで鄧小平体制が一応できあがったということになろう。

短兵急の日本だったらとっくに大ゲンカで割れているところを、四年余の時間をかけて追いつめていったところは、いかにも中国的である。ここでくわしく述べる余裕はないが、そこまでもっていった権謀術数―今日風にいえば、スケジュール闘争はお見事というしかない。同時に華国鋒を副主席の末席につかせ生き恥をかかせているが、これは中国の面子（めんつ）感覚からいえば最大なる侮辱である。

「評論する自由もない」悲劇だが、これはこんごにかならずシコリを残すだろう。

波乱含み第三時代の始まり

そこで六中全会が歴史的に位置づけるとどうなるかであるが、私は第三時代の始まりと規定する。すなわち、一九四九年から七六年までの二十七年間は毛沢東時代であり、毛―周コンビの第一時代という時代区分ができる。七六年その二人が相次いで死亡し、そして中国は第二時代に入る。七六年から八二年の今日までの五年近くの期間であるが、毛―周コンビの第一時代に対しそれは華国鋒―葉剣英コンビの時代といえる。そして今回の政変で中国は第三時代に入った、これが六中全会の時代的意義である。

問題は華―葉コンビの第二時代の性格であるが、それは七七年八月の十一全大会ではっきり示されている。一口でいえば、純粋毛沢東路線を継承し、文化革命についてもこのような政治革命はこんご何回も行う―と大きく肯定している。つまり、第二時代の思想基盤を純粋毛沢東路線に求めたということである。

それに対し、鄧小平はただちに反撃にうつり、毛沢東批判のキャンペーンをしたのである。それを一口でいうと「毛沢東の功績は三分、あやまちは七分」ということになろう。それを当時「三・七分法」といわれたのだ。

ところが意外に強い抵抗を受け、なかでも葉剣英を筆頭とする、長老グループから、それでは党団結の思想根拠がなくなるではないかと反撃され、そして結局「毛沢東の功績第一、あやまち第二」に後退したのである。いいかえれば「三・七分法」から「七・三分法」への譲歩的妥協で、やっと六中全会開催にこぎつけたということであり、これが真相である。

六中全会は次の十二全大会の準備会議であり、十二全大会を経て第三時代は正式に認知されるという組み立てであるが、その第三時代の最も重要なイデオロギー的立場が以上のように鄧小平主流派にとってはきわめて不満であるところに問題が残されている。第二にそのような毛沢東路線容認論ではたして党の求心力が回復できるかどうかである。これで鄧小平体制が一応

日米大学野球 日本が優勝

宮本―仁村好リレー 3回打者一巡の猛攻

3年ぶり3度目のV

◇日米大学野球選手権第5戦

米国	0	0	0	0	0	0	1	0	0
日本	0	0	4	0	0	0	0	0	X

41

第十回日米大学野球選手権大会の第5戦は三十日、札幌・円山球場で行われ、3勝1敗と王手をかけていた日本が三回に大量点をあげて勝ち、三年ぶり三度目の優勝をとげた。

日本は三回米国の3投手から四本（一塁打）の2点適時打など打者一巡の猛攻で大量4点。守っては宮本（早大）が六回まで3安打の散発に抑える好投、七回に連打をあびて一点を失ったが、救援仁村（明大）の2点適時打など打者一巡の猛攻で大量4点。守っては宮本（早大）が六回まで3安打の散発に抑える好投、七回に連打をあびて一点を失ったが、救援仁村（早大）が八、九回をピシャリと断ち切った。

ピックアップ

★口事件の渡辺全日空副社長が退任 ロッキード事件で偽証罪に問われている全日空の渡辺尚次副社長と外為法違反の沢雄次取締役が、三十日開かれた同社株主総会で全日空からの退任を了承された。若狭得治会長は留任。

また、この日丸紅では、株主総会後取締役会で、松尾泰一郎社長の退任が決定、ロ事件の後遺症もいえて新生・丸紅がスタートした。

★防衛力増強は平行線 訪米中の大村防衛庁長官とワインバーガー米国防長官との会談は、ワシントンで二十九日午前十時（日本時間同午後十時）すぎから、約四時間にわたって行われた。この中で米側は「ソ連の軍事的脅威は劇的に増大した」との厳しい認識を示すとともに、日本の防衛計画大綱の見直しを重ねて迫った。大村長官は「大綱達成が先決」と述べ、会談は完全な平行線のまま終わった。（時事）

★京都市空きかん条例、3度目の提案見送り 京都市は、指定都市初の空きかん条例制定をめざしているが、三十日、七月臨時市会への条例提案は見送ることにした。二月、五月市会についで三度目の提案見送りとなる。背景には、さる五月六日クモ膜下出血で倒れた船橋求己市長の意識不明のままの長期入院の事態が影響しているものとみられる。

きょうのダウ

東証 42銭 7867円（前日比＋15円69銭）
大証 03銭 7531円（前日比＋6円14銭）

復権の日なさそう

名日だけの副主席

毛主席の遺言てトップに

華国鋒氏

一九二一年、山西省交城県生まれ。十六歳で「中華抗日救国先鋒隊」（抗日ゲリラ組織）に参加、現在の名はここからとったもので、本名は蘇鋳。四五年、郷里の山西省県党委書記に就任。四九年に湖南省に転じて、毛主席の出身地湘潭地区の党委責任者となり、同地区の水利かんがい事業に功績を上げ、毛主席の称賛を受ける。六九年の第九回党大会で中央委員に選出され、七五年、国務院副首相兼公安相に。翌年周首相がたおれるなど首脳人事に激動があったが、毛主席から「あなたがやれば私は安心だ」の事実上の遺言を受け、同主席死去に伴い、党中央委主席、軍事委主席に就任した。

しかしその政治経歴から、かねて文革・「四人組」グループとの関係がとりざたされたほか、七六年四月公安相として天安門事件を鎮圧したことや、「四人組」粉砕後に推進した新経済政策の誤りなどが強く批判されていた。五十九歳。

大阪抄

プロ野球オールスターのファン投票は、締め切りまで、まだ間があるが、最近になく話題が多い。しかも華やかな争いをしているのが原と掛布の三塁のポジション。ともに巨人、阪神という人気チームの看板選手でこれからの票の動きが注目されるが、対照的にパの捕手部門で近鉄の梨田が十万票を突破して独走しているのも興味深い。

×

梨田は、確かに昨年、一昨年と日本シリーズ活躍はめざましかった。今年も健在なら掛布にも負けないだけの票が集まっても当然といえるだろう。だが、五月中旬に手を痛めてから戦列を離れて目下二軍で調整中。投票が始まった時点で登録まで消された選手。それがどうしてこれだけの票を集めたか首をひねりたくなる。

×

今年のシーズン初め、ある雑誌社がプロ野球人気選手のアンケートをとったことがある。それによるとトップは原でも掛布でもなく梨田だった。甘いマスクが若い女性の人気を集めたらしい。タレントの世界ならまだしも、実力を売りものにするプロ野球の世界でこうした現象が出ているのを喜んでいいのか、オールスター運営委も複雑な心境だろう。

政府広報

もう身につきましたか 夏の省エネルギー

エネルギーの節約は、身近なことから心がけましょう。

●冷房温度はおおむね28度に。1度上げれば、冷房費は約1割節約できます。

●ふろの水は、午前中に張っておく。家族ができるだけまとまって次々にはいる。

●夏のレジャーは、マイカーをひかえ、電車・バスなどを利用する。

（省エネルギー・資源対策推進会議）

大阪新聞
発行所 大阪新聞社
郵便番号 530
大阪市北区梅田2丁目4番9号
電話大阪(343)1221番(大代表)
振替 大阪 2742番
© 大阪新聞社 1981

最終版 証券最終値 50円

きょうの証券裏情報

和光強気のリケン

〈4面〉

食堂も・喫茶も・事務用も
みつよし 三吉のパイプ椅子
カタログ送呈
商事部 大阪市柏田八八の四 電話(三四一)〇五三四
東大阪工場 大阪市柏田八八の四 電話(七二一)〇五三四
神戸支店 神戸市兵庫区船寺通一 電話(五七一)七七二二
京都市南区(京都国道)京都市南区 電話(六七一)一五二二

※この医薬品は使用上の注意をよく読んでご使用下さい。
ちにヘモリンド 舌下錠
扶桑薬品工業株式会社